

2022年8月19日  
西日本旅客鉄道株式会社

## 鉄道駅バリアフリー料金制度を活用して バリアフリー設備の整備を加速してまいります

JR西日本では、お客様により安全・安心で快適なサービスを提供していくため、国や地方自治体のご協力をいただきながら、ホーム柵、エレベーターなどの鉄道施設のバリアフリー整備を進めてまいりました。

2021年12月に、都市部において鉄道をご利用になるお客様に広くご負担いただいてバリアフリー化を進める制度（鉄道駅バリアフリー料金制度）が国により創設されました。今後はこの制度を活用することで各種バリアフリー設備の整備を加速してまいります。

### 1. 京阪神地区における今後のバリアフリー設備整備について

2032年度までに、整備対象エリア（図1）の全駅（211駅・603番線）にホーム柵（可動式または昇降式）あるいはホーム安全スクリーン<sup>※1</sup>を整備することとし、お客様のご利用の多い駅などではホーム柵を整備します。これにより、ホームからの転落による列車とお客様の接触事故の防止を図ってまいります。



可動式ホーム柵



昇降式ホーム柵



ホーム安全スクリーン<sup>※1</sup>

※1：センサーによりお客様の転落を検知し、速やかに列車を止めるシステム

① 2022年度から先行して整備を進めるエリア

② 2025年度に整備を拡大するエリア

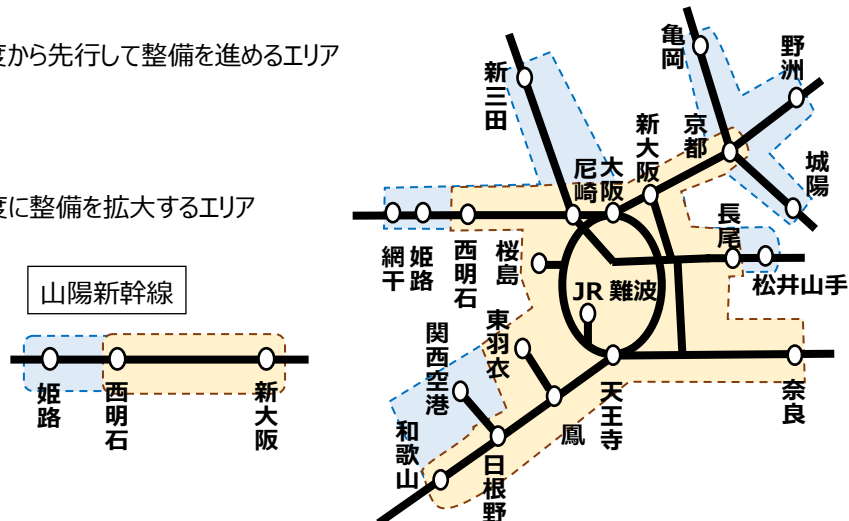


図1 整備対象エリア

## 2. 鉄道駅バリアフリー料金制度の活用

整備を進めるにあたり、鉄道駅バリアフリー料金制度を活用することとし、本日、国土交通省近畿運輸局に、当制度を活用した料金設定および整備等計画の届出を行いました。

[届出の概要]

### ①整備計画

2022年度末までに整備対象エリアにてホーム柵を15駅42番線に整備することとしています。今後は2027年度までに、ホーム柵を25駅78番線、ホーム安全スクリーンを84駅245番線への整備を完了します。

これによりホーム柵やホーム安全スクリーンが整備された駅をご利用になるお客様の割合を、2025年度に5割、2027年度に7割となることを目指します。

今後のご利用の回復や世界的な半導体不足などの取り巻く環境の変化を考慮し、今回の届出は2027年度までとしておりますが、2028年度以降も当制度を活用し引き続き整備を進める予定です。

また、2033年度以降はホーム安全スクリーンを順次、ホーム柵に置き換えていくことを基本とし、ホーム安全スクリーンの効果を検証しつつ、ホーム安全対策の方針を検討してまいります。

		整備数	
		2021～2025年度	2026～2027年度
ホーム柵（可動式・昇降式）※2		9駅19番線	8駅18番線
ホーム安全スクリーン※2		47駅142番線	36駅101番線
段差解消 設備※2	エレベーター	2駅4基	
	エスカレーター	1駅4基	
	ホームと車両床面の段差隙間縮小	6駅14番線	—

※2：当制度による整備数のみ記載しています。またホーム柵の整備駅は2021～2025年度と2026～2027年度で重複する駅があります。

### ②料金設定

当制度に基づき、整備対象エリア内をご利用になる場合、下表に記載の料金を旅客運賃に加算します。運賃に加算して収受した料金は、バリアフリー設備の整備費などに充当いたします。小児は旅客運賃に料金を加算した大人の半額となります。通学定期旅客運賃には加算しません。

※新幹線をご利用になる場合を含みます。

#### 料金設定額（大人）

普通旅客運賃	定期旅客運賃（通勤）		
	1箇月	3箇月	6箇月
10円	300円	900円	1,800円

現行の運賃体系の制約上、まずは先行して2022年度から整備を進めるエリア（図2：図1の①の範囲と同じ）において、2023年4月1日から料金を収受します。

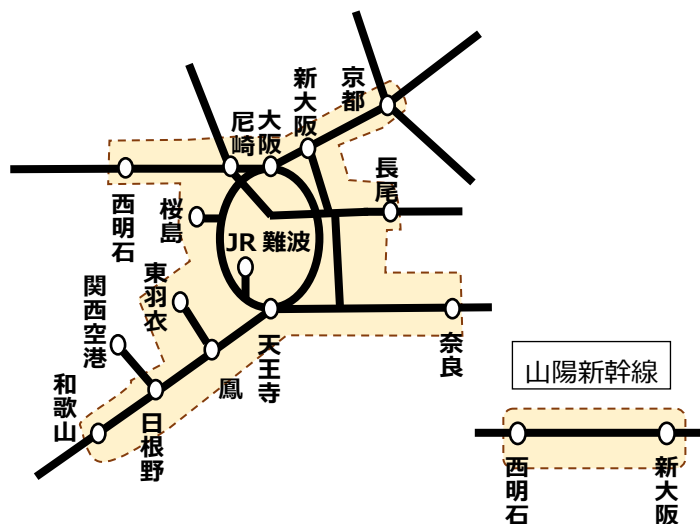


図2 料金収受エリア〔電車特定区間〕（2023年4月1日より開始）

また、2025年春を目途に、整備と料金収受の対象エリアを拡大（図1の②の範囲）したいと考えています。拡大にあたっては、整備対象エリアの運賃体系の共通化も課題であり、今後、検討を進めてまいります。

※拡大するエリアは、今後の関係機関との調整の結果、若干変更となる場合がございます。

## 〔参考〕これまでのバリアフリー設備の整備に関する取り組み

2021年度末時点の当社エリアにおける主なバリアフリー設備の整備状況は、以下のとおりです。

	整備または整備に着手
ホーム柵	32 駅 89 番線
段差解消設備	386/400 駅※ <sup>3</sup> (96.5%)

※3：1日あたりの乗降3,000人以上の駅ならびに乗降2,000人以上3,000人未満で自治体の基本構想で生活関連施設に位置付けられた駅

今回のご案内の取り組みは、SDGsの17のゴールのうち、特に9番、10番、11番に貢献するものと考えています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

JR西日本グループは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



## バリアフリー整備・徴収計画

鉄軌道事業者名	西日本旅客鉄道株式会社
---------	-------------

整備方針	
全期間	<p>① ホーム安全スクリーン<sup>*</sup>、ホーム柵(TASC含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・転落リスクを基本とした優先度により、ホーム安全スクリーンおよびホーム柵の整備を促進</li> <li>・ホーム安全スクリーンは2032年度までに整備対象エリア全域に整備</li> </ul> <p>※センサーによりお客様の転落を検知し、速やかに列車を止めるシステム。2033年度以降はホーム安全スクリーンを順次、ホーム柵に置き換えていくことを基本とし、ホーム安全スクリーンの効果を検証しつつ、ホーム安全対策方針の検討を行う</p> <p>② 段差解消</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗降3,000人以上駅、および2,000～3,000人で自治体の基本構想(生活関連施設)に位置付けられた駅に、段差解消を実施</li> <li>・必要に応じてバリアフリー経路複数化も実施</li> </ul> <p>③ ホームと車両の段差隙間縮小</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪環状線を中心に実施</li> </ul> <p>④ 料金収受システム等改修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段階的徴収計画に従い改修を実施</li> </ul>
2021～2025年度	<p>① ・2033年度以降にホーム柵を整備する駅に対し、ホーム安全スクリーンを整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗降10万人以上の駅を優先し、ホーム柵を整備</li> </ul> <p>② 乗降3,000人以上駅への段差解消、経路複数化を実施</p> <p>③ 大阪環状線に段差隙間縮小を実施</p> <p>④ 料金システム等を改修</p>
2026年度以降 (2027年度まで)	<p>① ・2033年度以降にホーム柵を整備する駅に対し、ホーム安全スクリーンを整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗降10万人以上の駅を優先し、ホーム柵を整備</li> </ul> <p>② 乗降3,000人以上駅への段差解消、経路複数化を実施</p>

料金額				
券種	定期外		定期券	
	普通券 (磁気券)	普通券 (IC)	通勤定期券	通学定期券
設定額(円)	10	10	※1	0
年間徴収額 (百万円)	(2023～2024年度) 3,100 (2025～2027年度) 3,900		(同左) 2,100 (同左) 3,400	0
料金徴収 対象駅	別添による			
備考	<p>※1: 1ヵ月300円、3ヵ月900円、6ヵ月1,800円</p> <p>※2: 新幹線定期券、在来線特急列車用定期券、特別車両定期券、普通回数券、団体乗車券、貸切乗車券、一部の特別企画乗車券を含む</p>			

※普通券の設定額については、大人1乗車当たりの料金を記載すること。

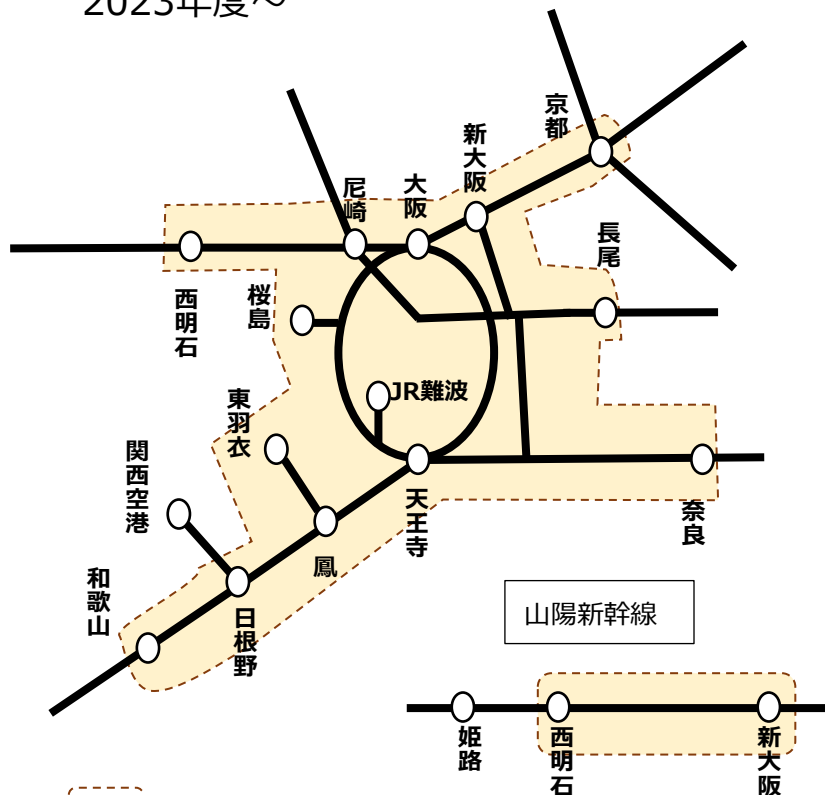
※定期券の設定額については、全ての定期券料金から算出した1乗車当たりの平均額を記載し、備考欄に各期間別(1ヵ月・3ヵ月・6ヵ月など)の料金を記載すること。

※回数券や企画乗車券などの券種から徴収する場合は、備考欄に該当する券種名を記載するとともに、定期外の年間徴収額に該当する券種からの年間徴収額も含めて記載すること。

年間徴収額	5,200 百万円 (2023～2024年度)
	7,300 百万円 (2025～2027年度) ※2028年度以降も継続予定
徴収期間	5 年間 (2023.4～2028.3)
総徴収額	32,300 百万円
総整備費	47,400 百万円
	(2025年度までの計画: 26,300 百万円 2026年度～2027年度の計画: 21,100 百万円)
	※2028年度以降も継続予定

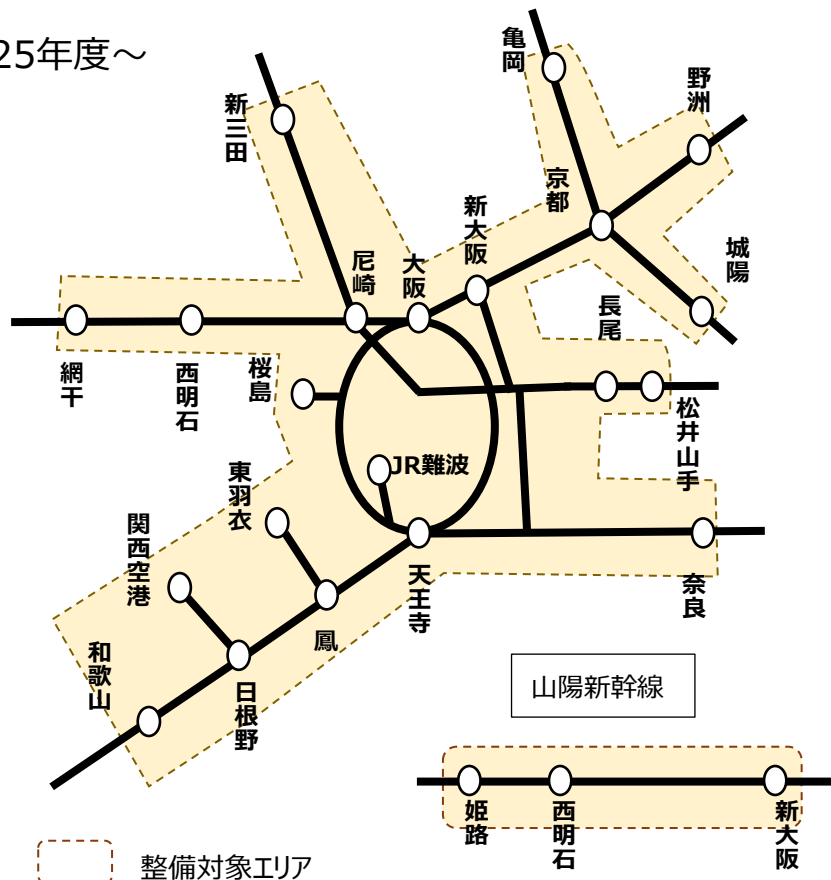
# 料金收受エリア図

2023年度～



- 整備対象エリア
- 料金收受エリア  
=「電車特定区間」「大阪環状線内」エリア

2025年度～



- 整備対象エリア
- 料金收受エリア (想定)

※料金收受エリア内でご利用になる場合が対象  
(新幹線をご利用になる場合を含む)

## バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2021.4～2026.3）

整備内容		
(1) 設置・改良費（附帯費用含む）		
設備名	整備数	整備費
ホーム柵	9(19) 駅      1 9 (63) 番線	16,000 百万円
エレベーター	0(2) 駅      0(4) 基	200 百万円
エスカレーター	0(1) 駅      0(4) 基	
段差隙間縮小に資する設備	6 駅      14 番線	300 百万円
ホーム安全スクリーン	47 駅      142 番線	5,000 百万円
備考	※ホーム柵、エレベーター、エスカレーターのカッコ内は整備に着手している数を示す	
(2) 更新費（附帯費用含む）		
① 設備更新		
設備名	整備数	整備費
エレベーター	15 駅      25 基	500 百万円
備考		
② 車両更新		
路線名	整備数	整備費
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）		
維持管理費（附帯費用含む）	2,200 百万円	
収受システム改修費	1,700 百万円	
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）	400 百万円	
備考		

※整備数：計画期間内に供用開始する設備の数

※整備費：計画期間内に整備する設備の費用（計画期間内に供用開始しない設備の費用も含む。）

計画期間内の整備費（（1）～（3）の合計）	26,300 百万円
-----------------------	------------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホーム柵設置番線数	19 番線	
段差解消駅数	一経路確保駅	一 駅
	二経路以上確保駅	一 駅

## バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2026.4～2028.3）

整備内容		
(1) 設置・改良費（附帯費用含む）		
設備名	整備数	整備費
ホーム柵	8(16) 駅      18(61) 番線	14,100 百万円
エレベーター	2 駅      4 基	1,400 百万円
エスカレーター	1 駅      4 基	
ホーム安全スクリーン	36 駅      101 番線	3,500 百万円
備考	※ホーム柵のカッコ内は整備に着手している数を示す	
(2) 更新費（附帯費用含む）		
① 設備更新		
設備名	整備数	整備費
ホーム柵	1 駅      2 番線	200 百万円
エレベーター	24 駅      30 基	700 百万円
備考		
② 車両更新		
路線名	整備数	整備費
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）		
維持管理費（附帯費用含む）	1,200	百万円
収受システム改修費	—	百万円
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）	—	百万円
備考	※本制度の活用は2028年度以降も継続する予定のため、本制度終了時に必要となる収受システム改修費及びその他の費用について、本様式には計上していない	

※整備数：計画期間内に供用開始する設備の数

※整備費：計画期間内に整備する設備の費用（計画期間内に供用開始しない設備の費用も含む。）

計画期間内の整備費（(1)～(3)の合計）	21,100 百万円
-----------------------	------------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホーム柵設置番線数		18 番線
段差解消駅数	一経路確保駅	1 駅
	二経路以上確保駅	1 駅